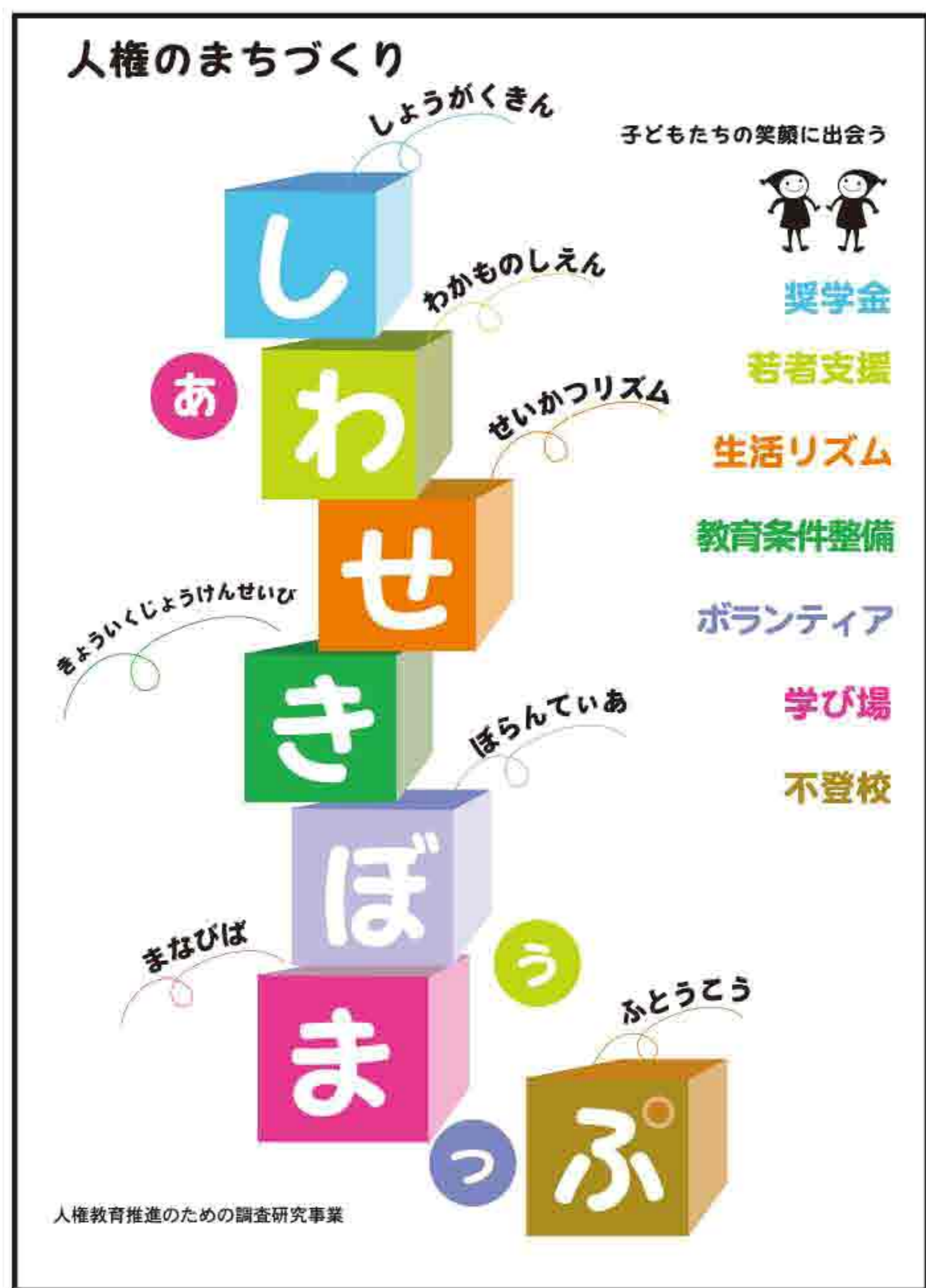


アンケートから



昨年、人権の視点で取り組んでいる活動をまとめた啓発パンフレット『しあわせきぼうまふ』を制作しました。このパンフレットの終わりのページにアンケートを添付して、小郡のまちづくりに関する質問や皆さんの声をお聞きすることができました。その集計の結果をまとめてみました。(アンケート総数186件)

同和問題や障がい者問題、子どもの人権について「困っている」「困っている人がある」と答えられた方が多かったです。

学び場支援事業には多くの方が関心を持ち、子どもの人権も含めて、地域の子もたちへの温かいまなざしが感じられました。

教育条件整備について、全体の4割近くの方が知っている」と回答しています。署名活動の取り組みなどへの関心の高いことがわかります。

奨学金に関して、記入の仕方の難しさや家庭の事情を知られることが嫌だという声もありました。また、40代、50代になると利用したいと考えている方が増えており、高校・大学進学での経済的負担を感じている人が多いようです。

ボランティアに関して、全体の8割近くの方が関心があると答えています。

生活リズムについては、家庭の問題と考える方が過半数(56%)をしめ、若い親たちには厳しい現実となっています。

若者支援については非正規雇用など心配する声が寄せられていました。ニートやひきこもりについては「個人の責任である」という見方は20%、「社会に問題がある」31%、「どちらとも言えない」が48%。若者支援の必要性が認知されてきています。

不登校について「個人の問題」であると考えてる方が19%、「社会に問題がある」31%、「どちらとも言えない」が50%。数年前の状況からすると、不登校を社会全体で考えていこうという見方が増えています。



気になる皆さんからの声

若者支援やニートやひきこもりについて

- ◆社会に思いやりのない。
- ◆個人の問題は大きいですが、不景気の現状の中、若者が働く意欲を積極的に持つことは厳しい。
- ◆夢や希望を持てる社会ではない。
- ◆社会と繋がるためには個人の勇気も必要だし、それを受け入れる社会体制も必要だと思う。
- ◆若者の非正規雇用については心配している。

不登校について

- ◆家庭が基本ですが、社会で見守る多くの目も大事です。
- ◆子どもが自分を守るための方法として不登校はありと思う。
- ◆その子一人ひとりに対応して考えないといけないと思う。
- ◆子どもが安心して学校に通える環境をつくっていかないと。個人の強さは人との関わりの中で築いていくものだから。

今回の啓発誌ではこれらのみなさんの声にスポットを当てて、取材を進めていきました。

